

# 廃棄物実態調査票の記入要領・記入例

## 実態調査票【その1】の記入例

※この資料には、調査票の具体的な記入例が記載してあります。

※自社で発生した廃棄物すべてが対象となります。再生利用、売却をしている場合も記入してください。

※ご提出いただいた調査票の記入内容について、電話等により確認させていただく場合もありますので、必ず調査票の控えをとっておいていただきますようお願いいたします。

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票【その1】を記入してください。

事業所の概要	事業所名	例△△△熊谷店		事業内容 (具体的に) 自動車の修理・整備
	所在地	熊谷市〇〇-△△-□□		
	代表者氏名	埼玉 太郎	記入者 ふりがな (部課、氏名) 〇〇部〇〇課 さいたま はなこ 埼玉 花子	
	記入年月日	令和6年△月〇日	電話番号	

事業の概要	従業者数	100人	車の整備等
	貴事業所の現在の従業者数(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入してください。		貴事業所内で車の整備等を行っていますか。該当する番号に○をつけてください。 ① 車の整備(タイヤ、オイル交換等を含む)を事業所内で行っている。 2. 行っていない。

令和5年度の1年間に廃棄物(再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む)は発生しましたか。該当する番号に○を付けてください。

① 発生した。

2. 発生しなかった。

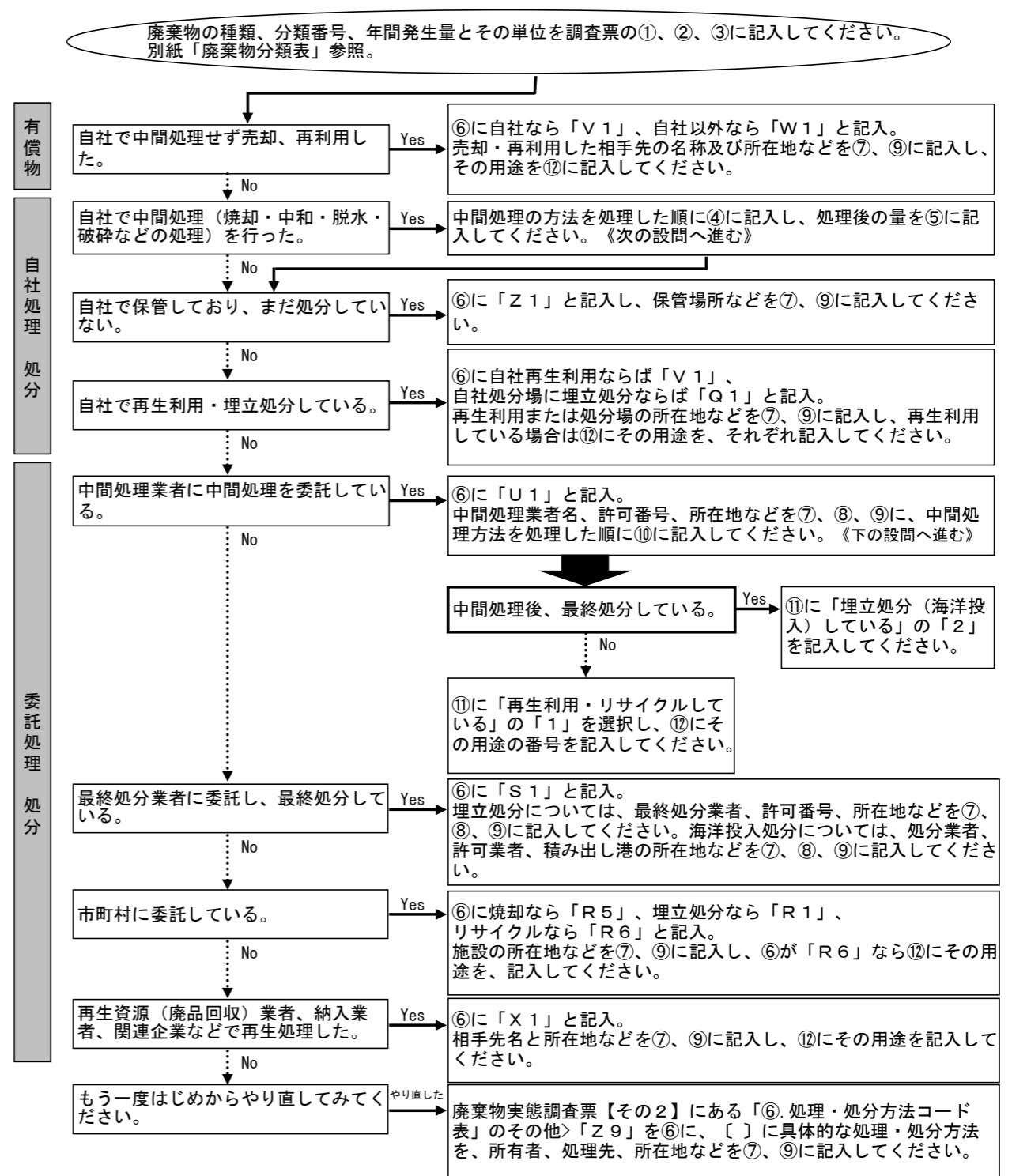
上記の「事業所の概要」、「事業の概要」を記入の上、ご返送ください。

- 貴事業所から発生した廃棄物を事業所内で焼却していますか。
- 1. 焼却している(熱利用していない)
  - ② 焼却している(熱利用している)
  - ① 熱利用(乾燥、給湯、暖房、冷房等)
  - ② 発電
  - ③ その他 [ ]
  - 0. 焼却していない

- 貴事業所から発生した廃棄物を事業所内で脱水していますか。
- ① 脱水している。
  - 0. 脱水していない。

※調査票【その2】に貴事業所から発生する廃棄物等の状況について、記入してください。

## 実態調査票【その2】の記入要領フローシート



# 実態調査票【その2】の記入例

## 調査対象期間

●この調査の対象期間は、令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物（再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む）の発生と処理・処分の状況を質問①～⑫までの流れにしたがって記入してください。

## 調査対象とする事業所と廃棄物

●この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物（再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む）だけが記入の対象となります。  
●廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に「廃棄物分類表」を掲げてありますので参考にしてください。

## 発生量について

●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」をお答えください。

○自社で焼却している場合、発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Eを参考にしてください）  
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。したがって「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

○自社で脱水している場合の発生した廃棄物とは脱水前のものです。  
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式により計算してください。  
＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100%－脱水後の含水率%）÷（100%－脱水前の含水率%）

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。  
○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。→中和処理後の「汚泥」を発生量とします。  
○含油廃水を油水分離した場合。→油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。

## 記入について

●同じ種類でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入してください。  
●発生量等をkg（キログラム）又は、t（トン）以外の単位で把握している場合は、できる限り換算して記入してください。また、個数や本数の場合も1個当たりの重量等より換算してください。  
●処理業者等へ処理・処分を委託して不明な点は、具体的な内容を業者に確認したうえで記入してください。

## ④中間処理方法コード表

- A：焼却
- B：脱水
- C：天日乾燥
- D：機械乾燥
- E：油水分離
- F：中和
- G：破砕
- H：分級
- I：圧縮
- J：溶融
- K：切断
- L：焼成
- M：堆肥化
- N：銀回収
- O：コンクリート固型化
- P：金属（鉄）回収
- Q：非鉄金属回収
- R：濃縮
- S：油化
- T：ばい焼
- U：洗浄
- V：分解
- Z：その他

## ⑥処理・処分方法コード表

- ＜自己処理＞  
Q1：自社の処分場で埋立処分した。  
V1：自社再利用した。  
W1：売却（利益があった）した。  
Z1：自社で保管している。
- ＜産業廃棄物処理業者等（他社）で処理＞  
S1：処理業者の処分場で直接埋立処理（海洋投入）した。  
S2：埼玉県環境整備センターで直接埋立処分した。  
U1：処理業者に中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。  
X1：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。
- ＜市町村で処理＞  
R1：市町村等が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。  
R5：市町村の清掃工場で処理した。（ごみ収集を含む）  
R6：市町村の清掃工場でリサイクルした。
- ＜その他＞  
Z9：その他

## ⑩中間処理方法コード表

- A：焼却
- B：脱水
- C：天日乾燥
- D：機械乾燥
- E：油水分離
- F：中和
- G：破砕
- H：分級
- I：圧縮
- J：溶融
- K：切断
- L：焼成
- M：堆肥化
- N：銀回収
- O：コンクリート固型化
- P：金属（鉄）回収
- Q：非鉄金属回収
- R：濃縮
- S：油化
- T：ばい焼
- U：洗浄
- V：分解
- Z：その他

## ⑫資源化用途コード表

- 10：鉄鋼原料
- 20：非鉄金属等原材料
- 30：燃料
- 41：飼料
- 42：肥料
- 43：土壌改良材
- 50：建設材料
- 60：パルプ・紙原材料
- 70：ガラス原材料
- 80：プラスチック原材料
- 81：再生タイヤ
- 90：セメント原材料
- 91：再生油・再生溶剤
- 92：中和剤
- 93：高炉還元
- 98：その他

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考に調査票【その2】を記入してください。

別紙「廃棄物分類表」を参照してください。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0（ゼロ）」を記入してください。

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不特定の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入してください。

地域番号は別紙「地域番号表」を参照してください。

⑪処理後の処分方法  
1 再利用・再生利用している  
2 埋立処分（海洋投入）している

区分	行番	①廃棄物の名称	②分類番号	③年間発生量					④方法番号					⑤中間処理後量	⑥処理・処分方法	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称等	⑧委託処理業者の許可番号	⑨処理・処分先又は再生利用先の所在地		⑩方法番号			⑪処理後の処分方法	⑫資源化用途			
				百	十	千	百	十	一	単位	1次処理	2次処理	3次処理					百	十	千	百	十			一	単位	所在地
記入例：A	1	洗車汚泥	0 2 2 1																都道府県	所沢市町村	1 0 7	B				1 ②	
記入例：B	2	廃油（エンジンオイル）	0 3 1 1			2	4	0	0										都道府県	川越市町村	1 0 2	E				①・2	30
記入例：C	3	廃タイヤ（大型車）	0 6 2 5																都道府県	秩父市町村	1 0 6					1・2	81
記入例：D	4	廃タイヤ（普通・小型車）	0 6 2 6																都道府県	川口市町村	1 0 4					1・2	81
記入例：E	5	金属くず（部品くず）	1 2 1 0																福島都道府県	いわき市町村	0 7					1・2	10
記入例：F	6	廃プラスチック	0 6 1 4																都道府県	さいたま市町村	1 0 1					1・2	
記入例：G	10	事業所ごみ	6 0 0 0																都道府県	熊谷市町村	1 0 3					1・2	
記入例：G	11	生ごみ	1 0 0 3																都道府県	秩父市町村	1 0 6	M				①・2	42

記入例：A  
・分離層の清掃を(株)▽▽に委託している。  
・業者に問い合わせたところ、汚泥分としては年間3tくらいであり、所沢市にある△△(株)の脱水施設で中間処理されているとのことである。  
・中間処理後は埋立処分しているとのことである。

記入例：B  
・月にドラム缶1本ぐらゐの廃油が発生した。  
・年間の発生量を計算すると2400ℓである。  
計算式  
200ℓ × 1本 × 12ヶ月  
・川越市の□□(株)に処理を委託した。  
・□□(株)では油水分離後、燃料として再生利用している。

記入例：C  
・年間に廃タイヤが150本発生した。  
・このうち普通車用タイヤ100本は川口市にある○○タイヤ販売店が下取りした。  
・大型タイヤの50本は秩父市にある(株)××に売却した。  
・(株)××では再生タイヤに利用している。

記入例：D  
・自動車の修理の際に鉄くずが年間3t発生した。  
・福島県いわき市にある□□商店に売却した。  
・相手先では、鉄鋼材料として再生利用している。

記入例：E  
・廃プラスチックが年間500kg発生した。  
・その都度、自社の焼却炉で焼却した。  
・その灰の量は、およそ50kgで自社の処分場（さいたま市）で処分した。

記入例：F  
・事務所のごみが1日2kg程度発生する。年間の発生量を計算すると500kg程度である。  
計算式 2kg × 250日  
・これは熊谷市の清掃センターへ直接搬入している。

記入例：G  
・食堂からの残飯が10t発生した。  
・これは秩父市の(株)△△に委託した。  
・委託先では、堆肥化肥料として再生利用している。